

みづ

No.38
道彩展機関紙

<http://www.ne.jp/asahi/so-bi/net/dousai/>

道彩展機関紙“みづ”第38号
発行 北海道水彩画会
道彩会代表 小堀清純
札幌市西区発寒5条8丁目
13-24-1101号
年1回発行



年1回発行

第41回 道彩展を終えて

2022年8月17日

8月21日

札幌市民ギャラリー

多様な表現

道彩会代表 小堀清純

第41回道彩展は一四一点の作品が搬入され、厳選した九七点が展示されました。コロナ禍の開催であったが入場者は約八〇〇人を超えて幕を閉じました。審査は率直な意見を交わす中、慎重に実施しました。

総評として、出品者は減少しているが全体的にレベルが向上しており、個性豊かな作品が増え具象・抽象を問わず多様な表現の作品が集まり充実した展览会となりました。入選者の傾向として写実画が多いが、若い作家の自由な表現による作品も大いに歓迎しています。奮って応募してください。応募者の減少の問題についても出品料の見直しや宣伝活動を強化していきます。

最後に会員・会友が競い合い、道彩展がますます発展するよう祈念しております。

第41回道彩展受賞者

道彩展賞

若杉 博丈（札幌）

北海道知事賞

西方 礼子（苫小牧）

札幌市長賞

井利元敬子（石狩）

札幌市教育長賞

窪田美代子（七飯）

北海道新聞社賞

林 明夫（苫小牧）

八木賞

原 貴子（石狩）

伸子賞

田中 孝昌（当別）

奨励賞

朝霧 榎介（札幌）

島田 光宏

（札幌）

西 孝明

（江別）

福島 明子

（札幌）

会友努力賞

加藤 政史（札幌）

松山 頌子

（札幌）

会友推举

高田登志子（札幌）

原 貴子（石狩）

福島 明子（札幌）

たしかな歩みを 続けている道彩展

新道展会員 クループ環会員

香取 正人



「白い講堂Ⅰ」若杉博丈

今年もコロナの影響が続き不安な中での開催になったが、会場に入ると意欲的な作品が適切な間隔で展示され、良い展覧会になったことを喜びたい。

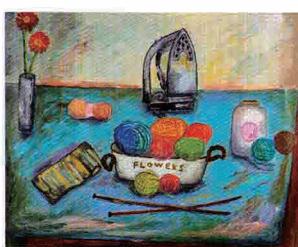
水彩絵具は身近な画材であるが、多様な表現にも対応できる可能性を持っている。この会は以前から自由な表現を大切にとて、共通の認識もあり、独自の表現世界を追求し続けている会員も多い。従って水彩の世界を広げた多彩な作品に出会える楽しい展覧会になっている。

一方、一般出品者の場合は具象そして写生を中心とした作品が多くなるのは当然でもある。中には水彩絵具の扱いに習熟した人もいるが、描くことを楽しんでいる人など多様な傾向の出品者が見られるのも面白い。

このような多彩で自由な作品

が並ぶことは会場内に楽しさや身近さが生まれ、水彩画に親しむ人が増えるように思える。そして、出品者がこの会から新鮮な刺戟を受け、自分の表現方法や方向に何かの収穫を得られることがあれば、より質の高い会に向うそうである。

個々の作品にふれてみたい。道彩展賞の若杉博丈は、素直な描写で対象を捉えている。知事賞の西方礼子、会友努力賞加藤政史も素直な情景描写と丁寧な色使いで落ち着いた雰囲気を持たせている。三者とも確かな技術を持つているが、もう少し対象に迫る描写が欲しい。



「手芸の調べ」井利元敬子

が成功し、市教育長賞窪田美代子は難しい構図に苦労しながらも水彩の爽やかさを出そうと努力している。道新賞林明夫の人物描写も迫力があり魅力的。伸子賞田中孝昌の作品は見る人を絵の中の世界に引き込む描写力があり佳作。会員推举松山頌子は不透明水彩の重厚さと奔放な筆の動きが独特の魅力を創りだしている。

